

令和4年度 長寿の里・南濃 事業報告

【基本方針】

- ・ 地域の高齢者福祉拠点となるべく、地域社会のニーズを正確に把握し、的確に応えることで地域の皆様から頼られる施設を目指す。
- ・ 利用者一人一人に対して安心・安全・快適な生活環境を提供するため、感染症対策を徹底しながら利用者視点の個別ケア推進に努める。
- ・ 継続的な人材教育・育成により、職員の知識・技術や接遇の向上を図り、サービス向上に努めるとともに、職員にとっても働きやすく魅力ある施設を目指す。

【令和4年度重点目標】

- ・ 事業運営を安定的に継続させる取組み
- ・ 部署間や事業所間の連携、地域との連携強化
- ・ 職員の総合的な資質の向上と魅力ある職場作りへの取組み
- ・ 継続的な感染症対策の徹底

【運営計画】

〈特別養護老人ホーム〉

1. 地域との連携体制強化

- ・ 感染症対策を徹底しながらも、地域福祉の担い手としての役割を全うすべく、緊急性の高い状況に置かれた方々の受け入れについては、慎重を期して対応した。
- ・ 今後とも、震災等緊急時については、施設を(地域の)防災拠点として適切に機能させるため、次年度については、地域との関係性をより強固なものとしていく。
→法人(また施設)としての、正式な事業継続計画については作成中。

2. ユニットケアの推進

- ・ コロナ禍における特殊な状況下、職員が自主・柔軟性を持ち、多職種が協調することで、限られた資源を有効に活用し、ユニットケアの安全性を重点にケアの維持に努めた。
- ・ 感染対策により様々な制限がかかる中、利用者のニーズに基づき、今できる最大限のサービスは何かを考えながら、日々の幸福感を1つ1つ満たす取組みを実施した。
- ・ 人と人との繋がりが希薄になりがちな環境下であったものの、利用者が求める居心地の良さを追求し、馴染みの人間関係を継続できる環境整備を行うことで、家庭的・健康的な暮らしを提供した。

3. 専門職の連携を活かした職場作り

- ・専門職のスキル向上を目指し、オンライン研修を中心に、積極的な外部研修への参加を促し、専門知識の習得に努めた。また、これらは施設内における伝達講習を通じ、介護サービスの品質向上においても良い効果をもたらした。
- ・職員個々のレベルアップのため、介護福祉士資格取得及び実務者研修受講希望者に対しできる限りの環境を提供し、知識や技術の向上を間接的に支援した。また、介護関連資格を有していない職員に対しては、資格取得に向けた制度説明、スケジュール等のアドバイスをを行い、「専門性の重要度」に関する意識を向上させた。
- ・地域から求められる、医療依存度の高い利用者への支援内容や看取りニーズを正確に把握し、施設での最期が、家族の気持ちに寄り添ったものであるように努めた。

4. 安定的運営基盤の確保

- ・ショートステイと連携し、稼働率確保と円滑な受け入れに努めた。
- ・サテライト施設である長寿の里・海津とのすみ分けを行い、当施設では要介護度の高い方々を積極的に受け入れた。

〈ショートステイ〉

1. 適切な介護サービスの提供

- ・利用者の心身状況に応じたサービス提供を心掛け、ケアマネジャーと協働し、利用者自身が望む環境での生活がより長く継続できるよう、医療面へのアドバイスや関連サービス事業所との連携に努めた。
- ・利用者が安心・安全・快適な生活を維持できるような支援を念頭に、感染症対策を徹底した上での受け入れや、日常において少なくなった交流の場の提供に努めた。

2. 家族や事業所との連携強化

- ・利用者の心身状態確認や、家族要望を丁寧に聞き取ることで、施設では簡単には気付けないであろう(顕在化する前段階での)課題を把握することができた。また、担当ケアマネジャーや職員等と情報共有を積極的に図る事で、大きな問題に発展しかねない複数の事例を未然に防ぐことができた。
- ・利用者の細やかな体調変化に気を配り、家族との連携を図りながら、的確な判断にて医療機関との連携に努めた。

3. 安定的運営基盤の確保

- ・他事業所との連携により、利用者に関する情報を適時適切に把握することで、サービスの利用調整や、必要に応じて緊急の受け入れに応じた。

〈デイサービス〉

1. 利用者ニーズへの対応

- ・利用者状態に応じた機能訓練計画の作成、見直しを行い、適切な訓練の実施を通じて機能の維持向上に努めた。
- ・住み慣れた環境での在宅生活を継続できるよう、専門職間の情報共有を行うとともに、目標設定や訓練内容の見える化を図った。

2. 魅力ある施設への取り組み

- ・利用者のニーズを把握した上で、家族やケアマネジャー、他事業所との関係性を強化することにより、利用者や家族にとって、必要とされるサービス提供体制の確立に努めた。
- ・職員個々のレベルアップのため、介護福祉士資格取得及び実務者研修受講希望者に対し、できる限りの環境を提供し、知識や技術の向上を間接的に支援した。また、介護関連資格を有していない職員に対しては、資格取得に向けた制度説明、スケジュール等のアドバイスをを行い、「専門性の重要度」に関する意識を向上させた。

3. 安定的運営基盤の確保

- ・居宅介護支援事業所に対して、積極的な営業活動や情報提供を行うことにより、稼働率の安定的な向上につなげることができた。
- ・職員会議・デイ会議の場を利用し、専門性の高い研修を行う事で、職業意識や基礎的サービスの品質向上に努めた。

〈居宅介護支援〉

1. ケアマネジメントを的確に行うための知識取得に重点をおき、内外の研修に参加した。研修参加により、介護支援専門員の知識・資質の向上が図れたことで、利用者や家族のニーズに基づいたプラン作成のレベルアップに繋げることができた。
2. 利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、包括的・継続的なケア体制確立や地域ネットワーク構築・活用が行えるよう、各市町村、地域包括支援センター、医療機関、地域他事業所との連携に努めた。

〈訪問介護〉

1. コロナ禍においても、利用者が住み慣れた環境で安心・安全な生活を継続できるよう、感染症対策を徹底しながら、心身状態に応じたサービスを他事業所と連携して提供した。
2. 職員が利用者と向き合い、きめ細かなサービスを提供することで、自身の仕事に誇りとやりがい、また使命感を持つことができ、業務に充実感を得ることができた。
3. 地域における関係機関やヘルパーとの連携と情報共有に努めた結果、迅速な判断、的確な対応が実現し、利用者が安心できる暮らしを維持することができた。